

対馬保健所管内における感染症情報

令和7年 第40週（9月29日 ～ 10月5日）

1. 定点把握対象疾患

発生状況	疾患名	定点当たり（人）		報告数	内訳			発生年代等
		前週 (39週)	今週 (40週)		対馬 病院	上対馬 病院	豊玉 診療所	
	(季節性)インフルエンザ	0.33	-	0	0	0	0	
↓	新型コロナウイルス感染症	19.67	10.67	32	30	1	1	10歳未満：4名 20歳代：3名 40歳代：3名 60歳代：4名 80歳以上：1名 10歳代：10名 30歳代：3名 50歳代：2名 70歳代：2名
	RSウイルス感染症	-	-	0	0	0		
	咽頭結膜熱	-	-	0	0	0		
↑	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.00	0.50	1	0	1		9歳：1名
	感染性胃腸炎	-	-	0	0	0		
	水痘	-	-	0	0	0		
	手足口病	-	-	0	0	0		
	伝染性紅斑（リンゴ病）	-	-	0	0	0		
	突発性発しん	-	-	0	0	0		
	ヘルパンギーナ	-	-	0	0	0		
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	-	-	0	0	0		
	細菌性髄膜炎	-	-	-	*基幹定点			
	無菌性髄膜炎	-	-	-	*基幹定点			
↑	マイコプラズマ肺炎	-	1.00	1	*基幹定点			
	クラミジア肺炎【オウム病は除く】	-	-	-	*基幹定点			
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	-	-	-	*基幹定点			
↑	急性呼吸器感染症（ARI）	21	40	120	ARI 定点			

2. 全数把握対象疾患

報告なし

3. トピックス、季節情報

◆長崎県内で伝染性紅斑（リンゴ病）の報告数が多い状況が続いています。

・対馬市においては、顕著な報告数の増加を認めていませんが、長崎県内の他の地区においては、警報レベルの報告があります。

伝染性紅斑（リンゴ病）とは？

- ・伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発疹性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」ともいわれます。
- ・感染経路は、飛沫感染と接触感染です。
- ・約10～20日の潜伏期間の後、両頬に境界鮮明な紅い発しんが現れ、体や手・足に網目状の発しんが広がります。
- ・多くの場合、頬に発しんが出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発しんが現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します
- ・妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるため、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、注意が必要です。

◆新型コロナウイルス感染症の報告数が多い状況が続いています。

・対馬市の報告数は減少傾向となっていますが、長崎県内の中では報告数が多い地区となっています。引き続き、感染対策に努めましょう。

